

Здравствуйте! こんにちは!

楽しく学ぶロシア語

どこで話されている言葉?

ロシア語が使われている国はロシアだけではなくありません。ロシアは20数年前まで、ソビエトという巨大な連邦国家の中心でした。ソビエト連邦には、ロシアの他にベラルーシやウクライナ、北のバルト3国（ラトビア、エストニア、リトアニア）、中央アジアの5か国（カザフスタン、ウズベキスタン、タジキスタン、トルクメニスタン、キルギス）、さらに南のグルジア、アゼルバイジャン、モルドバ、アルメニアが含まれていました。これらの国々におけるロシア語の現在の立場や通用度は、歴史的な経緯や政治的理由から実にさまざまで、一概には言えませんが、今でも多数のロシア人が居住し、ロシア語で生活している地域が少なくありません。ベラルーシやカザフスタンなどのように、自国の民族語とともに、ロシア語を公用語としている国もあります。正確な言語人口は把握しにくいのですが、ロシア連邦（ここにも民族的にはロシア人でなくてもロシア語を使用している人々がたくさんいます）の人口1億4000万余りの他に、主要言語あるいは第2、第3言語としてロシア語を用いている人の数は相当数にのぼると言えるでしょう。

日本語・英語とはどんな関係?

もともとロシア語は、インド・ヨーロッパ語派の中でも有力な派であるスラブ語派という大きなグループの中のひとつで、ベラルーシ語やウクライナ語とはとくに近い関係にあります。ポーランド語やチェコ語などもスラブ語派に属しますが、ポーランドやチェコでは英語と同じラテン文字が使われています。ローマ字を見慣れた私たちの目にはロシア文字は少々変わっていて、絵文字のように見えるものもあります（実際、日本でロシア文字をそんなふうに使っているのを見かけたことさえあります）。同じスラブ語なのにどうして文字が違うのでしょうか？そこには歴史的なキリスト教伝播の経緯が深く関わっています。ロシア語の文字はギリシア正教の学僧キュリロス（ロシア語ではキリール）がスラブ人の間に東方教会のキリスト教を普及させるために、スラブ人の発音に合わせて考案した文字がもとになっているのです。これがのちにキリール文字として、ロシアをはじめ正教を受け入れた国々で発達をとげました。

一方スラブ語派の国であっても西方教会のキリスト教を受け入れた国々ではラテン文字が用いられることとなり、両者は別の文化圏に属する、時として対立する関係になったこともありました。キリール文字については次の項で詳しく解説します。じつは、ラテン文字もギリシア文字がもとになっていますので、ロシア語には英語と共通のラテン文字も入っています。ロシア語と英語はインド・ヨーロッパ語派に属する点はいっしょですが、キリール文字を用いるロシア語とは遠い関係にあります。

文法や単語にも種々違いがあります。例えば、大学、学生、学校などは英語と共通の単語なのですが、university = университет（ウニヴェルシチェート）、student = студент（ストウジェント）、school = школа（シュコーラ）とロシア風に変貌し、別の単語のように感じら

れるかもしれません。ラジオやコンピューター、コーヒー、テニスのような新しい外来語は радио (ラーヂオ)、компьютер (カムピューテル)、кофе (コーフェ)、теннис (テーニス) となり、これらは英語のみならず日本語でもすぐわかりますね。

さて、そんなロシア語ですが、実は私たちの周りにもロシア語由来の言葉が結構あります。例えば、「イクラ」はロシア語で「魚卵」を意味する икра (イクラー) から来ています。また、女性が髪に着ける「カチューシャ (катюша)」もロシア語が語源で、元々は「エカチェリーナ」という女性の名前の愛称です。この他にも、「寄付」を意味する「カンパ」や「秘密基地」を意味する「アジト」、「知識階級」を意味する「インテリ」などがあります。

音と文字

ロシア語のアルファベットには33個の文字があります。その内2個はそれ自体は音を表さない単なる記号ですので、音は31ということになります。そのうち母音を表す文字は次の10個です。

а (ア), ы (ウイ), у (ウ), э (エ), о (オ); я (ヤ), и (イ), ю (ユ), е (イエ), ё (ヨ)

カタカナで記した音を見てください。8個の母音は日本語のア、イ、ウ、エ、オ、ヤ、ユ、ヨとよく似ています。実際少し強めに発音するだけでokです。ы (ウイ) と е (イエ) だけはあらたに覚える必要があります。さらに子音は21個、そのうち12個は6種類のペアのような関係です。

б (ブ), в (ヴ), г (グ), д (ドゥ), ж (ジュ), з (ズ)

п (プ), ф (フ), к (ク), т (トゥ), ш (シュ), с (ス)

詳しくは授業で解説しますが、これらは口の形が同じで、上の音は有声音 (濁音)、下の音は無声音といって空気が抜けている音です。残りの9個の子音は次の文字と音です。

л (ル), м (ム), н (ヌ), й (イ), р (ル), х (フ), ц (ツ), ч (チ), щ (シイ)

すぐ前の項でもお話ししたようにスラブ人の発音に文字をあてていったわけですから、これらの文字はロシア語の音を表すのにとっても合理的にできています。例えば先ほども例に挙げた英語の school はつづりを覚えなければ読めませんが、ロシア語では школа となり、シュ+コ+ラと日本語のローマ字の要領で読んでいくことができます (日本語では子音だけの音は「ん」くらいですが、ロシア語には多々あります。子音の読み方は上記のままです)。また母音を含む単語には必ず一か所アクセントがありますので、そこをやや伸ばして発音します。地図は карта = カールタ、本は книга = クニーガ、鉛筆なら карандаш = カランダージュ、という具合です。НЯ、НЮ、НЮのような音も2文字で書くことができます。няня = ニャーニャ (保育士)、мяч = ミャーチ (ボール)、Таня = ターニャ (女性の名) というように。アルファベットの数こそ33個と英語より多めですが、31種類の音とちょっとした記号の使い方、それにいくつかの音の変異さえ覚えれば読むことができます。はじめて見るロシア文字に「難しそう」と感じる人も多いようですが、誰でもわりあいすぐに拾い読みができるようになりますので、見かけほど単語を読むことは難しくありません。ただ、РやНのように英語と共通の文

字を使いながら、ロシア語ではそれぞれ、ル、ンと発音しなければならないところが少しややこしい点です。とくにPはルルル〜と舌を震わせる、いわゆる巻き舌です。中にははじめからロシア人以上に上手な人もいますが、不得意な人も練習でかなり出せるようになります。ロシア人の子供だって31音中これが1番難しいとされ、一生懸命練習して習得しているのですから、すぐにできなくてもあきらめる必要はまったくありません。

ちなみにモンゴルでは表記のために文字だけロシア文字を使用しています。伝統的なモンゴル固有の文字がとても難しいので、友好国であったロシアのアルファベットを借用したのですね。

日本人にとって学びやすい点／学びにくい点

すでに見てきたように、文字の形が変わっているわりには、ローマ字読みに慣れている私たち日本人には、一字一音対応が徹底しているので読みやすいことがあげられるでしょう。ただし、アクセントの位置は単語によってばらばらなので、単語を覚えるときは意味を確認するだけでなく、どこにアクセントがあるかチェックする必要があります。そのためには黙読するのではなく、かならず声に出してみる習慣をつけましょう。

それからロシア語には名詞一語文というのがあって、「春です」は Весна。(ヴェスナー=春)と一語でりっぱな文になります。「寒いです」も Холодно。(ホーラドゥナ=寒い)とやはり一語で表現します(*アクセントのないOはアーと発音します)。英語なら It's cold. となるところですが、自然現象などには主語を入れない言い方をするのがふつうなのです。こんなところも日本語の感覚からすると親近感がわくような気がしませんか。

またロシアはあれほど広大な国であるにもかかわらず、方言の差がほとんどありません。

大学で勉強するのは標準語的位置にあるモスクワの中部方言ですが、北部とも南部とも大きな違いはないのです。

大変な点は語尾変化を身に付けなければならないということでしょう。名詞には男性、女性、中性と3つの性の区別があり、さらに単数、複数の区別がありますが、実はもうひとつ、格変化というのがあります。

(1a) Я ^{ヤー ストゥージェントウ} студент. (я = 私は / студент = 学生です)

(1b) Я ^{ヤー ズナーユ ストゥージェンタ} знаю студента. (Я = 私は / знаю = 知っている / студента = 学生を)

「私はその学生を知っている」と言うときは(1b)のように学生という単語の語尾にひとつだけaをつけて「学生を」と表現します。これが格変化です。ちょうど日本語で「を」という助詞をくっつけるのと似ています。

ロシア語豆知識

日本ではロシア人の名前というと「イワン」が有名ですが、実際ロシアにはイワンがたくさんいます。歴史上もイワン大帝とかイワン雷帝などが有名ですね。ロシア正教が国教であった革命前まで(あるいはそれ以後も)、ロシア人は子供が生まれると教会の聖者の名を記した暦からわが子の名前をつけていました。教会暦には一日に数名の男女の聖人の名が記されているのですが、イワン聖人は170回も登場するので、イワンがふえてしまったのです。ロシア人

の名前にあまりバリエーションがないのもこのためです。

ロシアの小説を読んでいて、長い名前が出てきたり、呼び方が変わってしまったりしてとまどったことはありませんか。ドストエフスキーの代表作『カラマーゾフの兄弟』にはドミートリー、イワン、アレクセイという3人の兄弟が出てきますが、親しい人はドミートリーをミーチャ、アレクセイはアリョーシャというように愛称で呼ぶのが普通です。一方、あらたまった場合や敬愛をこめる場合は、イワン・フョードロビッチのように呼びかけます。フョードロビッチは苗字ではなくて父親フョードルの名前からきた父称というもので名前の後ろにつけられます。つまりロシア人の正式な名前は、名前+父称+苗字（例＝イワン・フョードロビッチ・カラマーゾフ）という構成になっているのです。

苗字は名前に比べるととても種類が豊富です。スミルノフ、イワノフ、クズネツォフなど古くからある伝統的な名前も存在する一方、新しく作られたような苗字もたくさんあります。文学はそういう苗字の宝庫で、作家が発明した姓であふれています。すぐ上で取り上げたカラマーゾフも「黒+塗る」という意味のロシア語からドストエフスキーが考え出した、とする説が有力です。

最近のトピック

注目される北極海航路

近年、ロシア政府が力を入れている経済政策の一つに北極海航路の活用があります。地球の温暖化が、氷に閉ざされた北極海の航行をより容易なものに変えるという皮肉な結果をもたらしたのです。将来、東アジアとヨーロッパ間の海上物流がより増大した場合、現在の主要ルートであるスエズ運河航路のキャパシティが限界を迎える可能性もあることから、日本にとっても決して無関係とは言えません。そもそもこの新たな航路はスエズ運河航路に比べて34%も距離を節約できるとのことですし、マラッカ海峡などスエズ運河が抱える航路上の難所も少なく、様々な点で有利であるとさえ言われています。もちろん、事業はまだ始まったばかりで、実際には実績もわずかで、整備しなければならない条件も多々あるようですが、すでに2009年から商業輸送も始まっています。ロシアは今後を見据えて、スエズ運河の代替ルートとしての活用のみならず、北極圏に算出する石油・天然ガスの輸送にも利用したいと考えているようです。北極海の氷が減少してホッキョクグマたちが行き場を失っているという悲しい現実もある一方で、ビジネスも着々と進行中というわけです。



原子力砕氷船ヤマール号